



2022年5月1日発行  
 公益財団法人とちぎYMCA  
 〒320-0411  
 宇都宮市松原2-7-42  
 Tel 028-624-2546  
 Fax 028-624-2489  
 www.tochigiyymca.org  
 発行人 / 塩澤 達俊  
 編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

# YMCA News

# 5

## 「芽生える萌芽、その先へー」 ～YMCA、さくらんぼ幼稚園に出会って気づいたこと～

表紙の写真から：新しいリーダーたちの歓迎会。あたたかい太陽に照らされています。

YMCA、さくらんぼ幼稚園に息子たちがお世話になり始めたのは今から4年ほど前。

入園当初は正直、「YMCAって聞いたことあるけれど、何をしているのかな?」とよくわかっていませんでした。しかし、今は子どもの活動を通じ、私自身も様々な価値観を学ぶ機会をいただいています。「天の神さま、今日も美味しい給食をありがとうございます。私たちに、丈夫な体とやさしい心をお与えください。」

これは、幼稚園で毎日給食前に先生や園児が行っているお祈りの一部です。丈夫な体だけじゃなくて、やさしい心か...素晴らしいなあ、初めて聞いた時は感銘を受けました。

また、運動会の開会式では「今日欠席したお友達にも神様の恵がありますように」と先生方も目を閉じ祈る姿に、休んだ子を思いやる気持ち...自分は思い至っていなかったこと、自戒を込めて慣れない手を合わせました。

さくらんぼ幼稚園やYMCAの各プログラムでは、体のたくましさが育まれることはもちろん、「やさしい心」を育む活動が多々なされていると感じます。

こんな出来事もありました。ある日夕食の時、園に通う息子が部屋の壁に貼ってある世界地図のいくつかの場所を指差し、「ここのおともだちは、ごはんがたくさん食べられないの。」と言います。どうやら礼拝の時間に先生から、「ハンガーマップ」(世界の飢餓状況)のお話を聞いてきたようです。家庭で、貧困、紛争、フードロスなどについても話すきっかけになりました。

この出来事は、「子どもは幼いなりに何かを感じているのだな」と思うきっかけ

となりました。以来、園やYMCAの活動の話なるべく聞くよう心がけています。心に芽生える萌芽、しっかり育てていくために、私たちは何ができるだろうー。

さて、YMCAでは、「初めてのチャレンジ」や「初めましての出会い」も多いのではないのでしょうか。最初は緊張して不安そうな子も、帰ってくる時には満足した表情で、なんだか自信がついたように見えます。先生やリーダー、仲間たちとの関わりは、子どもにとって豊かな人格形成につながっているのではないのでしょうか。

先日参加したサッカー大会では、リーダーが端にいる子に声をかけに行ったり、良いプレーや思いやりのある行動を積極的にたたえる姿が印象的でした。子どもたちは初めましてのお友達とチームになり、その子なりにコミュニケーションを取り力を合わせます。勝ち負けで悔しい思いもするけれど、「思いっきりやった!楽しかった!」というような弾ける笑顔がたくさん見られました。

私には障害のある弟がおります。YMCAの掲げる「ポジティブネットのある社会」の意識がもっと広がればと願います。一人一人の違いを認め合い尊重し、他者の痛みを分かち合える社会。排他ではなく包摂へ。

課題の多い世界に生きる私たち、子ども達に未来を託すだけでなく、大人も行動することが必要だと感じます。より良い社会のため、これからも皆さんと一緒に活動して行こうと思います。

さくらんぼ幼稚園 園児保護者  
 大村 恵

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

### 2022年度とちぎYMCA年間聖句

何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

(ピリピ人への手紙 4章6節)



## 認定こども園 さくらんぼ幼稚園 「入園式」



4月16日(土)2022年度入園式が行われました。さくらんぼ幼稚園では「入園式」は年少組の4月に行くことになっています。さくらんぼ幼稚園4年目の子から初めての子まで97名の子どもたちが、晴れの日を迎えました。こ

れから幼児期の3年間、様々な経験を通して成長していく子どもたちと一緒に過ごすかけがえのない時間は私たちにとって宝物です。泣いていた子が笑顔で登園してくれた日。幼稚園大好き!先生大好き!と言ってくれた日。何年たっても何十年たっても、忘れないものです。



こんな幸せな毎日を送れることに感謝を忘れず勤めてまいります。今年度もよろしくお願い致します。

本澤 利香

## 子どもの家だより ～上戸祭小子どもの家(上戸クラブ) 「居心地の良いクラブを目指して」

1年生42名、2年生4名の新入生46名を迎え、全学年合わせて154名で新年度がスタートしました。最初は室内の玩具や校庭の遊具でおとなしく遊んでいた1年生も2週間経った今では、上級生に混ざり、サッカーやドッジボール、ケイドロ等を一緒に遊んでいる姿がみられるようになりました。また、低学年のケンカの仲裁に入っている高学年や、1



年生のブランコを押してあげている上級生もいます。様々な場面で子どもたちの成長を感じます。昨年、一昨年とコロナ禍で自粛していたため、行事活動が出来ない状態でしたが、今年は子どもたちが楽しめるイベントを少しでもできたらと考えています。今の小学生

は習い事も多く、多忙な毎日を過ごしています。そんな中、友だちと自由に安全に遊ぶことができ、気持ちの上でも居心地の良い子どもの家であり続けるよう努力し、見守っていききたいと思います。

主任支援員 堀江 紀子

## 宇都宮市青少年活動センター トライ東

### 「新しいスタッフが加わりました!」

4月から新しいスタッフが加わりました。利用者の皆さまや地域の方にとってよりよい施設となるように職員一同精進いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

4月から入職いたしました、鷹箸 守(たかのほしまもる)と申します。

私は、学生の時ボランティア活動に積極的に参加しておりました。介護施設や公共施設での窓拭き、公園のゴミ拾いと、YMCAの街頭募金などに参加しました。どれも些細なことではありますが、地域の方々から「ありがとう」と言葉を頂いたことでとてもやりが



いを感じました。YMCAでの募金活動にもたくさんの方が協力してくださり、微力ながら力になれたことを嬉しく思いました。こうして再びYMCAに携わることができ、驚きと同時に嬉しい気持ちでいっぱいです。

また、学生時代はボランティアの他にもサッカーにも励んでおりました。挑戦したポジションは様々でしたが最も活躍できたと感じたのはディフェンスです。始めたばかりの頃は攻めがかっこいいなと思っていましたが、守りをやると相手のボールをカットしてピンチを凌ぎ、そのまま点を入れるためのアシストが出来たことが楽しかったです。この経験から、仕事でも誰かの助けになる働きをしたいと思うようになりました。コロナ禍でなかなか思うような活動が難しい状況ですが、私が企画・提案するイベントが利用者の皆さまにとって貴重な機会となるよう日々の業務に励みます。そのためには、1日でも早く仕事を覚えて利用者の皆さまに覚えて頂けるよう努力いたします。働くことが初めてなので沢山ご迷惑をお掛けしてしまっていますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

## ようとう保育園

### 「卒園式」



卒園式までの取り組みとして、自分たちがお世話になった先生たちや近隣の施設、世代交流で訪れたマイホームきよはらの方へメッセージカードや日めくりカレンダーを作るなど、感謝の気持ちを伝えました。

卒園式のお別れの言葉は、みんな

で過ごした一年を振り返り、「散歩に行ったとき、うぐいすの声が聞こえたね」「お泊り保育の時は、宝探しが楽しかった」など、自分たちの言葉で思い出を出し合って決めました。全員そろっての練習時間が取れなかったのが、部屋に言葉を貼りだすと、それぞれが声を出して読んだり、「ここは〇〇ちゃんと言うんだね」と、言う順番を確認したりしていました。

3月26日(土)卒園式当日、少し緊張しつつも期待に胸を膨らませて登園してきた子どもたち。保育士の手作りコサージュを胸につ

けてもらうと年長らしい誇らしげな顔になりました。

部屋からひろばに移動していくとリラックスから一転、緊張の表情に変わり、ピアノの音と共に入場。卒園証書授与では、自信に満ち溢れた表情で、堂々と歩く姿を見せてくれました。お別れの言葉の時は、大きな声でしっ



かりと言う姿に、頼もしさとさくら組のみんななら「大丈夫、必ずできる」という安心感を覚えました。

「♪さよならぼくたちのほいくえん」は、「家でも歌ったよ」と熱心に練習し、とくにサビのところは自信を持って歌えました。「♪にじ」の歌の時は、サビのところを保育士と保護者で手話でうたい、一体感を味わいました。

この一年間どんな時も、いっぱい泣いて、いっぱい笑って全力であそびました。就学に期待と不安が混ざり合っている子もいますが、さくら組の20名は、小学校への一歩を歩き出しました。

～さくら組のみなさん ご卒園おめでとうございませ～

増田 朋江

## 特別養護老人ホームマイホームきよはら 「春の陽気」



だんだんと暖かい日が多くなってまいりましたが、マイホームきよはらの皆さまはお元気に過ごされています。4月のはじめにお花見ドライブへ出かけました。コロナ禍ということで利用者様は車の中から桜を眺めていました。途中で道の

駅へ寄り道をしてさくらアイスを召し上がっていました。「車の中からだけと桜も見られてアイスも食べられていい気持ちだね。今度は小豆のアイスが食べたい」とお話しされていました。「次はいつお出かけできるかな」と嬉しそうに話されていました。お出かけすることで日常生活に活気が生まれ、楽しく過ごしていただいています。コロナの影響で以前のようにお

出かけすることは難しいですが、タイミングを見て感染対策を行いながら暖かい時期でのお出かけや外出のレクリエーションなどを行っていききたいと思います。これからも暖かい日が続きますが、またマイホームきよはらの皆さまの元気な姿をお届けしていきたいと思ひます。



## 【御礼・報告】

## サンタdeラン2021に参加しました!



12月19日(日)、子どもの貧困撃退チャリティイベント「サンタdeラン」に参加しました。当日運営ボランティア、実行委員と一般来場者も合わせて300人程の方が集いました。YMCAからは、高校生ボランティアグループ「つぼみ」のリーダーやスタッフ3名が参加をしました。パレードではメイン会場のバンバひろばを出発し、横断幕を掲げながら、子どもの貧困撃退を呼びかけながらオリオン通りを一周しました。また、出展ブースではおでんを販売し、51,600円の収益となりました。売上金は全てサンタdeランの寄付の一部とさせていただきます。

今回サンタdeランを通してとちぎYMCAがいただいたご寄付は383,287円となり、アットホームきよはらやつぼみ食堂など子どもの貧困に関わる活動で使わせていただきます。たくさんのご支援とご協力心より御礼申し上げます。

今回、高校生ボランティアグループつぼみは、実行委員・若者チームとして運営に携わりました。以下、参加したリーダーの声になります。

今回、つぼみは実行委員として準備の段階から参加させていただき、「若者チーム」として活動しました。若者チームでおこなった動画作成では、子どもの貧困撃退のために尽力されている団体の方々にインタビューをしました。それを通し、私たちが当事者意識をもって問題に取り組んでいく必要がある事など多くのことを学びました。そして、事前の募金の際や当日は、様々な方の温かさに触れることができ、私の心も温まりました。

イベントは一段落しましたが、今後も子どもの貧困の解決のためにできることを考えて、積極的にアクションを起こしていきたいです。また、キッチンカーでおでんを作り販売しました。幅広い年代の方が買って下さり、沢山の人が美味しいと言って下さったことで、安心安全な場所や食品で美味しく食べられる現状に感謝しなければいけないと感じました。今後は、私が所属する社会の中で、普段の生活の中の行動ひとつで自分にも何か得るものがあり、誰かを救う手助けの方法もあるということ伝えて行ければと思います。

宇都宮短期大学附属高3年 ヒスイ

## 今回いただいたご寄付

5,770,732円

頂いたご寄付を集計し、各団体にお届けします。	
・とちぎVネット	¥1,171,067
・子どものみらい応援隊	¥257,856
・だじょうぶ	¥724,465
・とちぎYMCA	¥383,287
・トチギ環境未来基地	¥76,282
・うりずん	¥360,919
・フードバンクうつのみや	¥594,105
・えんがお	¥28,280
・青少年の自立を支える会	¥21,488
・きよはら子ども食堂キャラバン	¥74,134
・ちゆんちゆん子ども食堂すずめのす	¥236,368
・宮つこ元気食堂	¥207,068
・家庭教育オビエオンラインリーダーたんぼほの会	¥109,825
・すくすく子育てやぎハウス	¥82,904
・とちコミ事務局経費(25%)	¥1,442,683

## 子ども食堂は、みんなの居場所キャンペーン2022

—つぼみのリーダーが参加しました—

4月10日(日)に、とちぎコミュニティ基金子どもSUNSUNプロジェクトとして、オリオンスクエアにて子ども食堂応援チャリティイベント「子ども食堂は、みんなの居場所キャンペーン2022」に参加いたしました。

とちぎYMCAからは、高校生ボランティアグループ「つぼみ」に所属する6名のリーダーと3名のスタッフが参加いたしました。キッチンカーではカレーを1皿300円で提供し、ステージでのパフォーマンスとして「やってみようダンス」と、日々輝学園高校との「パプリカ」を披露する盛り沢山の内容となりました。一緒にダンスを踊った日々輝学園高校の生徒の皆さんを始め、当日を迎えるまでの事前準備では若者ボランティアチームVレンジャーやキッズハウスなどのボランティアの皆さん他、宇都宮市で子ども食堂をされている様々な団体の皆さんと交流する機会となりました。



つぼみ食堂のキッチンカーには、子ども連れのご家族が多くいらっしゃり、「美味しかったです!」「頑張ってくださいね」と温かい言葉を頂きました。また、子ども食堂博士によるクイズでは、つぼみのリーダーが助手役として来場者の皆さまとステージ上で関わることも出来ました。

今年度から始まる「つぼみ」による「つぼみ食堂」(年間8回/トライ東にて開催予定)にも今回の経験を活かして運営に取り組んでいけるように頑張ります。次回のつぼみ食堂は、6月11日(土)16:00~19:00にトライ東で開催予定です。応援の程、よろしくお願いいたします。

担当: 菅原・川口

Learning by doing ~成すことによって学ぶ~

## スプリングプログラム実施報告

とちぎYMCAではこの春、子どもたちの全人的成長を願い、スプリングプログラムを実施いたしました。まん延防止期間中となり、より一層の参加者の皆様、保護者の皆様のご理解とご協力により一部プログラムを変更させていただきましたが、無事に実施することができました。

卒園、卒業、進学、入園、入学...など春は出会いがある分、物理的に仲間同士が離れてしまうことも事実です。ましてやコロナウイルスの影響により離れていることが当たり前になり、少しずつ人間の関係性が希薄なものになる恐怖もあります。そんな中で子どもたちがこのスプリングプログラムの中で手にいれたのは「出会いによる気づき」だと私たちは考えます。この気づきは混沌とした社会の中でも子どもたちの心の中にあり続け、今後の子どもたちの生涯の礎となっていきます。春スキーで感じた春の雪質。あの子のように!あのリーダーのように滑れるようになりたい!と人のかっこいい姿を見て感じた心の動き。家族の元を離れて一夜を過ごす体験は子どもたちにとっては親離れ、ご家族にとっては子離れのドキドキの瞬間です。家族にあえなくて寂しいと泣き出す子どもたちもいましたが、これも、これまでにご家族から存分に愛情をもらってきた証です。

どの気づきも子どもたちが自然と人と共にすごしたことによる産物です。これからもYMCAのプログラムではたくさんの気づき、いわゆる「みつかる。」があり、それらをそれぞれの生涯の中で「つながる。」そして、それぞれがそれぞれの環境の中でその紡いできた気づきを発信して社会が、その人の生涯が「よくなっていく。」そうになっていただけたら幸いです。

2022年のサマープログラムも6月から申込開始予定です。2022年度もとちぎYMCAのシーズンプログラムをどうぞよろしくお願いいたします。



YMCA Stands for Peace!

# ウクライナ緊急支援募金 中間報告

皆様からの温かい支援募金へのご協力に感謝申し上げます。

**募金総額: 1,207,301 円** (2022年4月15日現在)

とちぎYMCAで募金活動をスタートしてから多くの方からの募金をお預かりしています。3月下旬には、宇都宮市内で「とちぎコミュニティ基金」との合同企画で街頭募金を行い、街の人々の高い関心とご協力をいただきました。(上記の金額には含まれていません。次回、報告いたします。)

ヨーロッパの状況ですが、ウクライナ侵攻があつて即座にヨーロッパYMCAが避難者支援を開始し、その一環の中で日本への避難者の支援活動もなされています。日本YMCA同盟では3月18日、「ウクライナの家族を日本に呼び寄せたい」という方の避難支援を行ったことを機に次々と相談が寄せられるようになり、現時点で27組62名の支援依頼がきています。

今後は、日本に避難されてきた方々の生活支援も大切になってきます。皆さまの善意の募金が、世界のYMCAの連帯の中で生きた支援となっています。ウクライナに平和が訪れることを願いつつ、戦火を逃れた方々への支援を継続していきたいと思ひます。

以下に、各YMCAの活動報告が掲載されていますので是非、検索をしてみてください。

ウクライナYMCA: Brief Update on the status and involvement of several local YMCAs in Ukraine

ルーマニアYMCA: Together we care YMCA Romania

モルドバYMCA: Together we care YMCA Moldova

日本YMCA同盟: グローバルネットワークを活かした人道支援を



## 月刊#(ハッシュタグ)



とちぎYMCA総主事  
塩澤 達俊

### 第13回 #なにそれなにそれ

#### #清水次郎長#二項対立#脱構築#義侠心

ロシア・ウクライナ戦争が長期化しそうな今だからこそ、二項対立的な二分法的思考を脱構築してみよう!「どちらが敵か、味方か」「どちらが善で、悪か」と、ものごとを単純に合理化せず、割り切れなさのあるノイズに身を置いて考えてみよう!と思ひます。

江戸幕末に「海道一の親分」と名高い人物が清水次郎長(しみずのじろちょう)です。

次郎長は賭博や喧嘩渡世を稼業とする静岡県清水港のやくざ者で

すが、損得を考えず力ある者に負けずに弱者を救おうとしたり、困っている人を見ると放っておけない自己犠牲の気持ち(義侠心)にあふれた人で、このため「真の侠客」として浪曲に描かれた実在の人物(明治26年没)です。

戊辰戦争で明治新政府軍によって

殲滅された軍艦(咸臨丸)には戦死した旧幕府の乗組員の遺体がありましたが、明治新政府の咎めを恐れて誰も収容しようとしないうちに遺体は腐敗して船中に放置されていました。これを見かねた次郎長は小舟を出して遺体を回収し墓を建立して葬ったといひます。これを新政府軍は咎めたそうですが次郎長は「死ねばみな仏(ほとけ)にござる。仏(ほとけ)に官軍も賊軍もない」と突っぱねたそうです。

AはA、BはB、Aは非Bといったように同一性や純化・単純化を求める思考からすれば、次郎長の行動は割り切れなさ感のあるノイズ、なもの映ったでしょう。

ですが、AであってもBであっても関係ない!と二項対立をあっさり脱構築してしまう次郎長の義侠心のような第三項(ノイズ)こそがこれからの新しい世界には必要なのだと思ひます。

やがて戦争は終わるでしょう(一日も早い平和を!)。そのとき、同じ心をもつ双国の市民どうし(もちろん私たちのこころもそこにあります)が、国境線や憎悪という心の壁で敵と味方に分かれてしまうのではなく、地上に平和をつくるものとして再び居合わすことを祈るばかりです。



リーダーたちに感謝をこめて。

## ユースボランティアリーダーを送る会



新しいステップに進むリーダーたちに感謝を込めて。

ユースボランティアリーダーを送る会が開かれました。今年度、卒Yするリーダーは宇都宮・那須・トライ東で活動したリーダー21名と高校生ボランティアグループ「つぼみ」で活動したリーダー21名です。送る会

では後輩リーダーたちが準備した様々なレクリエーションやスライドショーを通してリーダーたちの絆や思い出を振り返りました。

卒Yするリーダーたちは「楽しかった思い出もたくさんあるけど、正直、辛いことも多かったです」と笑いながら話していました。きっと辛かったことも笑って話せるのは最後まで子どもた



ちを思い活動に参加してきたリーダーたちだったからでしょう。

本当に「大切な時間」とはなにか。卒YするリーダーたちがYMCAを飛び立つその後ろ姿で後輩リーダーたちに話しているようでした。新しいステージでのご活躍を心から期待し、応援しています。



とちぎYMCAの日常をご覧いただけます。

instagramもはじめました!

tochigi\_ymca

